

# 九州大学新キャンパスにおけるパブリックスペースの形成方針（中間報告）

2003.4.7 新キャンパス計画専門委員会了承

## パブリックスペースWG

九州大学では、新キャンパスで将来形成されるべき空間の質を明確にするために、緑地等のオープンスペースと建築物を対象として「新キャンパス・マスタープラン2001」を策定し、これにもとづいて各地区設計、各施設設計を行い、施設整備を行っている。

このたび、新キャンパス計画専門委員会のもとにパブリックスペース・ワーキンググループが設置された。本ワーキンググループは、マスタープランの主旨に沿って、新キャンパスのパブリックスペース（共用空間）におけるサイン、ストリート・ファニチャー、アート等に関する提言を行うことを目的としている。2002年12月より、ワーキンググループおよびそのコアチームの検討によって得た成果を、中間報告としてここにとりまとめる。

今後は、この中間報告における方針に基づいたマニュアルを策定し、安心・安全で快適なキャンパス環境の整備、多様な技術に支えられたサステナブル・キャンパスの形成を目指したい。

### 1. 対象範囲

パブリックスペースとして対象とする範囲は、以下のとおりである。

#### (1) オープンスペース

新キャンパス全体における建物の外部空間。アカデミックゾーンにおける「キャンパス・モール」、「キャンパス・コモン」、「グリーン・コリドー」、農場ゾーン、運動施設ゾーン、保全緑地など。キャンパスの建物周辺、敷地周辺を含む。

#### (2) 建物内部における共用空間

建物内部におけるホール、廊下、リフレッシュスペースなど。

#### (3) 半屋外空間

建物の低層部におけるピロティ部分など。

### 2. パブリックスペースの構成要素

パブリックスペースの構成要素として以下があげられる。これらの要素によって様々な空間の質が創出される。

- ・ ペイジメント（床面）
- ・ 植栽
- ・ 照明（光環境、夜間照明等）
- ・ サイン（案内、誘導、棟名、交通標識等）
- ・ 情報サービス端末（掲示装置等）
- ・ ストリート・ファニチャー（案内・誘導機器、ベンチ、ゴミ箱等）
- ・ アート（彫刻、壁画、モニュメント、オブジェ等）
- ・ 色彩

### 3. パブリックスペース形成の考え方と方針

#### 3.1. マスタープランの全体計画方針

「新キャンパス・マスタープラン2001」の6.全体計画方針において、パブリックスペースに直接関係する主な方針は以下のとおりである。

- (1) 伝統を創り出す象徴的空間と柔軟に変化・増殖する空間の共存(6.5)
- (2) 安心・安全で快適なキャンパス環境の整備(6.7)
- (3) 多様な技術に支えられたサステナブル・キャンパスの形成(6.8)

#### 3.2 パブリックスペース形成の考え方

九州大学新キャンパス・マスタープラン 2001 における「4.求められる新しいキャンパス像」をふまえ、新キャンパスにおけるパブリックスペースの形成の考え方を以下のように設定する。

(1)九州大学が「優れた思索を涵養し、学問的対話を促し、豊かな人間性を培う、真理探究の場」に相

応しい大学づくりを行ってきた精神を継承し、世界的レベルの研究・教育活動のさらなる飛躍が期待できる環境の形成を目指す。

(2)日本の科学技術政策が大きな転換期を迎えていることを契機として、先端的な科学技術の開発が推進される知的創造のフロンティアとなることを目指す。

(3)九州大学がアジアを軸とする世界各地の大学との学術交流を進め、優れた研究業績を生み出し、社会に多くの指導的人材を輩出してきたことをふまえ、優秀でクリエイティブな人材が育つ「知の胎盤」としての優れた環境をもち、皆が楽しみながら学び、誇りの持てるキャンパスの形成を目指す。

### 3.3 パブリックスペース形成の方針

マスタープランの全体計画方針及びパブリックスペースの考え方にもとづき、パブリックスペース形成の方針を以下のように定める。マスタープランで象徴的空間として位置づけた「大学の顔」「アライバル・ポイント」「キャンパス・コモン」の形成が特に重要な課題となる。

(1)大学の顔としてマスタープランに位置づけられたスペースに、新たな伝統を刻む象徴的空間をつくりだす。

(2)オープンスペースと建築との一体的なデザインにより、美しい象徴的空間を演出する。

(3)場の美しさや象徴性を演出する彫刻や記念碑等を計画的で効果的に配置する。

(4)楽しく歩けるキャンパス環境を形成する。

(5)歩行者動線と一体となった展示・交流等の賑わい空間と憩い空間を計画的に配置する。

(6)スムーズな移動を可能とするわかりやすい空間構成を実現するための計画的サインシステムを導入する。

(7)すべての人にやさしいバリアフリーな環境を形成する。

(8)安心性、信頼性を確保し、環境に配慮した先端的な各種技術を導入する。

(9)歩行者専用空間を整備し、自家用車等のパーソナル交通をコントロールする。

(10)防災、防犯上安心して活動できるセキュリティ・システムを導入する。

### 3.4 パブリックスペース形成マニュアル

#### 3.4.1 象徴的空間

(1)大学の顔

(2)アライバル・ポイント

(3)キャンパス・コモン

#### 3.4.2 キャンパスの骨格を形成する空間

(1)キャンパス・モール

(2)未来のポテンシャル軸

(3)幹線道路

(4)グリーン・コリドー

(5)ネイチャー・トレイル

#### 3.4.3 構成要素

(1)ペイブメント(床面)

(2)植栽

(3)照明(光環境、夜間照明等)

(4)サイン(案内、誘導、交通標識等)

(5)情報サービス端末(掲示装置等)

(6)ストリート・ファニチャー(案内・誘導機器、ベンチ、ゴミ箱等)

(7)アート(彫刻、壁画、モニュメント、オブジェ等)

(8)色彩

### 4. 工学系地区パブリックスペース形成にあたっての留意事項

建築設計図をもとにした検討を行う。

### 5. 参考事例